

賛助会員

**TAKARA
BELMONT**

タカラベルモント株式会社は、理美容・医療分野の機器や化粧品を手掛けています。フォーラム顔学2025では、「次世代型ミラー「ECILA」に蓄積されたビッグデータを活用した顔貌解析」、「ヘアスタイルレコメンドシステム構築」、「相同モデル化技術による顔貌解析」の3テーマについて発表し、2つの賞を受賞する栄誉に恵まれました。皆様との議論で得た多様な視点を糧に、顔学の知見を製品進化へと結びつけ、皆様に新たな価値を届けてまいります。今後も技術革新と創造性を追求し、顔学会の発展に寄与しながら、理美容・医療業界の未来を切り拓く挑戦を続けてまいります。



ホームページ



フォーラム顔学2025会場にて

B-by-C
corporation

あなたの顔が
あなたの未来を変える

顔のビックデータ解析で、誰もが、健康で輝く未来を手にする社会へ。私たちは、美術学的・解剖学的な基準で、美しさを見える化し、顔が変わる体験を提供します。



ホームページ

会員募集中!

新規会員は常時募集中です
まだ会員でない方は
ぜひ入会をご検討ください!



入会申込

顔学通信2025
令和7年12月10日発行
編集・発行 日本顔学会
(株)毎日学術フォーラム 日本顔学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル9F
TEL 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555
印刷所 株式会社グラフィック 〒612-8394 京都市伏見区下鳥羽西芹川町33

第31回 日本顔学会大会

大会長：渡邊 伸行

第31回日本顔学会大会
(フォーラム顔学2026)は、
金沢工業大学扇が丘
キャンパス23号館にて
2026年9月12日(土)～
13日(日)に開催です。

2026



似顔絵制作：橋本憲一郎

電子広報委員会

いま、なぜ顔学か？
～個性の尊重、細分化から統合へ～

統合化の中心はコンピュータグラフィックスを始めとするコンピュータの発達と普及です。コンピュータ技術が多様な分野を結び付ける接着剤の役割を果たしています。

電子広報委員会では以下のような業務を担当しています。

- ・日本顔学会公式ホームページの記事更新とサーバー管理
- ・会員メールアドレスの管理とメールリングリストの配信
- ・FacebookとXの日本顔学会公式アカウントによる記事の管理

委員長：鈴木 健嗣



似顔絵制作：斎藤忍

顔学通信編集委員会

編集長：斎藤 忍

今号は日本顔学会30周年を記念してページ数を増やし、最初に「日本顔学会30年の歴史」を掲載しました。この30年間を見ても分かる通り、日本顔学会には、幅広く多くのカテゴリーのメンバーが参加し、楽しみながら積極的に活動をしています。

またバックナンバーを日本顔学会ホームページより閲覧、ダウンロードができるようになりました。2023、2024年の活動報告もぜひご覧ください。



似顔絵制作：阪西明子

顔学通信 2025

日本顔学会 2025 年の活動報告
～30 周年記念特集～

INDEX

- ・ 日本顔学会 30 年の歴史
- ・ 30 周年記念シンポジウム開催報告
- ・ 関西支部・第5回研究会 開催報告
- ・ 第30回日本顔学会大会開催報告
- ・ 日本顔学会よりご挨拶
- ・ 日本顔学会とは？
- ・ 会員募集中！
- ・ 顔学オンラインサロン
- ・ 学会誌編集委員会
- ・ 学術変革領域（A）「顔身体デザイン」
- ・ ニュースレター編集委員会
- ・ 日本顔学会若手交流会
- ・ 化粧文化研究者ネットワーク
- ・ 美人画研究会
- ・ 賛助会員
- ・ 第31回日本顔学会大会のお知らせ
- ・ 電子広報委員会
- ・ 顔学通信編集委員会



日本顔学会
Japanese Academy of Facial Studies



1991	▼第1回ワー クショップ「顔」を軽井沢にて開催 基調講演：香原志勢「顔の進化」 8月26-27日
1992	▼第1回シンポジウム「顔」ーヒューマンコミュニケーションの原点をさぐる@工学院大学講堂 原島博、香原志勢、村澤博人、宮内淑子、末永康仁、市川和善、南敏 3月9日
1993	▼第2回シンポジウム「顔」その魅力を探る 鷺田清一、清水悌、原島博、上久保慧奈美、興水大和、大坊郁夫 3月1日 ▼第2回ワークショップ ー顔研究へのアプローチ@富士教育研修所 10月30-31日
1994	▼第3回シンポジウム「顔」ーその演出のしくみー @早稲田大学・井深大ホール 原文雄、馬場悠男、宮永美知代、鈴木巖、松尾通、池田宏 ▼第3回ワークショップ ー表情・顔研究の新たな展開ー @東京大学工学部 日本顔学会設立準備会発足 12月8日
1995	▼日本顔学会設立 初代会長に香原志勢就任 事務局を東京大学工学部電子情報工学科 原島研究室内に置く 3月7日 ▼第4回シンポジウム「顔」ー顔を観るー 遠藤光男、南伸坊、中村雄二郎、野村万之丞、島松茂 3月7日 ▼イブニングセミナー始まる 第1回「顔の進化の進む道」香原会長@東京大学工学部14号館 1階 141室 これより年 2～4回の定期開催となる 7月27日
1996	▼ニューズレター創刊「J.FACE(ジェイ・フェイス)」 3月1日 ▼会員誌ロゴマーク決定(原島先生原案→デザイン：宮下英一氏) 3月1日 ▼第5回シンポジウム「顔」ー顔をつくるー 南雲吉則、宮永美知代、三遊亭歌之介、細井尚子、三木俊治、清水悌 3月5日 ▼日本顔学会初めての総会開催 3月5日 ▼第1回日本顔学会大会「フォーラム顔学'96」 これより毎年フォーラムを開催@国立科学博物館新宿分館 3月31日ー9月1日
1997	▼第6回シンポジウム「顔」ーかおさばきー 橋本周司、大山紀美栄、サトウサンペイ、清水悌、井上宏 3月7日 ▼関西で初めてのセミナー開催 公開アフタヌーンセミナー「顔を粧う」@神戸ファッション美術館 6月14日 ▼第2回大会「フォーラム顔学97」@国立科学博物館新宿分館 8月30日ー31日
1998	▼第7回シンポジウム「顔」 「似顔絵ってなに?似顔絵大好き人間集合!」 中村桂子、宮島新一、辛島宣夫、興水大和、中野正好、南伸坊、南芳高、吉田勝戸 3月1日 ▼第3回大会「フォーラム顔学'98」@国立民俗学博物館 10月3日ー4日
1999	▼第8回シンポジウム「顔」ーその演出のしくみー 原島博、西村渭和、堀思介、大塚亮治、松尾通、南美希子、かづきれいこ 2月27日 ▼大「顔」展 ーカオが見える、「あなた」が見えるー @国立科学博物館(読売新聞社・国立科学博物館・日本顔学会共催)構想から5年を経て実現。 その後、名古屋市科学館ほかに巡回 7月31日ー10月17日 ▼第4回大会「フォーラム顔学'99」@国立科学博物館新宿分館 特別講演：小出裕一 8月28日ー29日 ▼大「顔」展(巡回) @名古屋市科学館 10月30日ー2000年1月30日 ▼関西アフタヌーンセミナー第 2回「コンピュータと顔の不思議な関係」 @大阪大学基礎工学部シグマホール 11月3日
2000	▼第9回シンポジウム「顔」ー顔学(かおがく)入門 グッドコミュニケーションを目指してー 大坊郁夫、山口真美、村澤博人、中尊寺ゆつこ、原島博 3月4日 ▼大「顔」展(巡回) @札幌メディアパーク 4月28日ー7月2日 ▼大「顔」展(巡回) @福岡市博物館 7月22日ー9月24日 ▼第5回大会「フォーラム顔学 2000」@鹿児島大学 公開シンポジウム「西郷隆盛の顔の謎」も開催 8月19日ー20日
2001	▼第10回シンポジウム「顔」ー 2001年顔の旅 Face Odysseyー 馬場悠男、大坊郁夫、森島繁生、村澤博人、中島昭彦、北山晴一、原島博、南伸坊、南美希子、伊波和恵、手島正行、石井政之 3月3日 ▼日本顔学会誌「KAOGAKU」創刊 巻頭言「学会誌は学会の顔である」(香原初代会長) 10月6日 ▼第6回大会「フォーラム顔学2001」@国立科学博物館新宿分館 特別講演：設楽博己、森洋子 10月6日ー7日
2002	▼第11回シンポジウム「顔」 ーヘアとメイク 10名のアーティストと共にあなたも変身ー 成弘弘至、半田まゆみ、山本浩未、大谷内鈴子、岡田知子、岡部礼子、佐藤ゆみ、高橋清子、内藤文子、藤林末恵、南久恵、山田佳乃子、吉場一美 3月6日 ▼第7回大会「フォーラム顔学2002」@新潟市民プラザ 特別講演：佐久間かつえ 9月28日ー29日
2003	▼第12回シンポジウム「顔」 ー男顔・女顔 いま選べる時代!ー 長谷川真理子、佐伯順子、蔦森樹、三橋順子、三枝みずき、黒田あゆみ、原島博、小林照子、渡辺七美子 2月25日 ▼第8回大会「フォーラム顔学2003」@国立科学博物館新宿分館 テーマ：「ジャパニメーションと顔表現」特別講演：百瀬義行、安生健一 9月27日ー28日
2004	▼第13回シンポジウム「顔」ー顔をうつす・うつされるー 北山晴一、荻島孝之、長友健二*、蜷川有紀、大坊郁夫、原島博、村澤博人、蛭田有一、池田陽子、参加者による初の写真コンテスト開催 *審査委員長 3月6日 ▼第9回大会「フォーラム顔学2004」@名古屋市科学館 特別講演：布垣直昭 9月25日ー26日
2005	▼事務局移転。早稲田大学理工学部橋本研究室へ 会員業務の一部について(株)毎日ビジネスサポート(現：(株)マイナビサポート)毎日学術フォーラムに委託 1月 ▼化粧文化研究者ネットワーク活動を開始 3月 ▼創立10周年記念シンポジウム「顔学の未来へ」開催 @国立科学博物館新館B2 6月27日 ▼第10回大会「フォーラム顔学2005」@国際電気通信基礎技術研究所(ATR) 特別講演：村澤博人、石黒浩 参加者投票によるベストアピール賞を設定 9月30日ー10月1日 ▼第1回鹿児島支部(支部会第1号) 支部会長：島田和幸理事(鹿児島顔談話会講演会としては第6回) 11月26日 ▼会員誌「ニューズレター」レイアウトを(株)毎日ビジネスサポート(現：(株)マイナビサポート)へ委託 12月 5日
2006	▼第2代会長に原島博就任 1月1日 ▼会員誌「ニューズレター」デザインをリニューアル(No.30) 3月20日 ▼関西アフタヌーン・シンポジウム テーマ：「化粧する女たち男たち」 @大阪樟蔭女子大学 5月20日 ▼第11回大会「フォーラム顔学2006」@芝浦工業大学 特別講演：杉田成道、加藤みどり子 9月30日ー10月1日 ▼公開シンポジウム3回シリーズ始動 全コーディネータ：瀬近美津子 基調講演：原島博 主催：花王芸術・科学財団 共催：日本顔学会 公開シンポジウム「顔と文化」第1回 ー進化し続ける顔ー @大手町サンケイプラザ 馬場悠男、長谷川真理子、石黒浩 11月11日 ▼第2回鹿児島支部会 11月18日
2007	▼公開シンポジウム「顔と文化」第2回 ー表現される顔ー 田沼武能、藪内佐斗司、三林京子 6月23日 ▼第12回大会「フォーラム顔学2007」@日本大学 特別講演：関龍彦、下村朱美 9月29日ー30日 ▼第3回鹿児島支部会 11月24日

2008	▼公開シンポジウム「顔と文化」第3回 ー心を映す顔ー 山口真美、茂木健一郎 5月24日 ▼第13回大会「フォーラム顔学2008」@東京大学 特別講演：佐藤弥 10月11日ー13日 ▼第4回鹿児島支部会 11月8日
2009	▼第14回大会「フォーラム顔学2009」@鹿児島大学 特別講演：原口泉 10月30日ー11月1日 ▼第5回鹿児島支部会 10月31日ー11月1日 ▼会報誌「ニューズレター」デザインをリニューアル(No.41) 12月22日
2010	▼事務局移転(株)毎日学術フォーラム内へ 学会運営体制を見直し、運営の一部を毎日ビジネスサポート(現：(株)マイナビサポート)へ委託 1月1日 ▼15周年記念行事「アフタヌーンセミナー」ここまで来た! 顔情報処理の最先端～表情認識から化粧合成まで～ @独立行政法人情報通信研究機構(NICT) NICTとのジョイントフォーラムとして開催 3月8日 ▼第15回大会「フォーラム顔学 2010」@東京医科歯科大学 特別講演：青木義満、姫野友美 10月23日ー24日 ▼第6回鹿児島支部会 11月 27日
2011	▼日本顔学会が日本学術会議協力学術研究団体に指定される 2月24日 ▼第1回中部支部研究会 支部長：福村晃夫 代表幹事：興水大和 3月24日 ▼東日本大震災で被災された方の会費免除をアナウンス 8月 ▼第16回大会「フォーラム顔学 2011」@日本歯科大学新潟生命歯学部 特別講演：渡邊健一 9月23日ー24日 ▼第7回鹿児島支部会 11月19日 ▼第2回中部支部研究会 12月22日
2012	▼第3代会長に興水大和就任 1月1日 ▼第38回イブニングセミナーにて「原島博の顔学講座」始まる(年 1回～3回) 1月18日 ▼第3回中部支部研究会 7月26日 ▼第17回大会「フォーラム顔学 2012」@東京電機大学東京千住キャンパス 特別講演：北岡明佳、久保田富弘 10月13日ー14日 ▼公認サークル第1号として「日本顔学会若手交流会」発足 第1回交流会開催以降、顔学の未来を作る研究者の交流、議論の場とし、年3回程度のペースで開催 11月24日 ▼第8回鹿児島支部会 11月24日
2013	▼第9回鹿児島支部会 10月26日 ▼第18回大会「フォーラム顔学2013」@東北大学川内南キャンパス 特別講演：長岡龍作 前日11月8日に大会付随行事「防災・復興研究会」石巻大川小学校、雄勝を訪問 11月9日ー10日
2014	▼若手交流会ホームページ開設 1月 ▼日本学術会議公開シンポジウムにて「若手交流会」の活動を発表 7月26日 ▼第19回大会「フォーラム顔学 2014」@昭和大学旗の台キャンパス 特別講演：アントン・ウィッキー、入江和生 10月25日ー26日 ▼第10回鹿児島支部会 11月16日
2015	▼公認サークル第2号「美人画研究会」発足 第 1回研究会は3月28日に、第2回目は 5月30日に開催 7月 ▼第20回大会「フォーラム顔学2015」@中京大学 特別講演：いとうせいこう、原島 博 20周年記念式典を実施 9月12日ー13日 ▼20周年記念企画の一環として「顔の百科事典」(丸善出版)を刊行 学会理事をはじめ、各分野の専門家が担当執筆 9月15日 ▼「FORUM顔学特集号 Vol.15. No.1」(9月発刊)、「Jface20周年記念特集号 Vol.15 No.2」(11月発刊) 9月15日
2016	▼第1回関西支部研究会@立命館大学 支部長：瀬尾昌孝 事務局長：南野美紀 7月9日 ▼第21回大会「フォーラム顔学2016」@東京藝術大学 テーマ：「表現する顔」特別講演：本郷寛、招待講演：坂本満 初の作品展示開催(以降毎回開催) 11月19日ー20日
2017	▼第2回関西支部研究会@立命館大学 7月8日 ▼第22回大会「フォーラム顔学2017」@関西学院大学 テーマ：「ブランドとしての顔ー魅せる感性・見る感性ー」特別講演：森田修史、井上章一 初の似顔絵サミット開催 9月9日ー10日
2018	▼第4代会長に菅沼薫就任 1月1日 ▼第23回大会「フォーラム顔学2018」@明治大学中野キャンパス テーマ：「顔はインタラクション」特別講演：杉原厚吉、森川嘉一郎 9月1日ー2日
2019	▼第3回関西支部研究会@武庫川女子大学甲子園会館 テーマ「顔学の新たな可能性を探る」 7月6日 ▼第24回大会「フォーラム顔学2019」@北海道情報大学 特別講演：大坊郁夫、TELYUKA(石川晃之、石川友香) 9月14日ー15日
2020	▼第1回オンラインサロンがスタート、以降月2回開催 5月5日 ▼第25回大会「フォーラム顔学2020」@慶應義塾大学矢上キャンパスを拠点に支部を北海道、大阪、石川に置き、オンライン開催 特別講演：林伸彦(NHK) 企画シンポジウム：「顔学のトレンドを探る」 10月3日ー4日 ▼第11回オンラインサロンより、月に1回開催に変更 10月20日
2021	▼創立25周年シンポジウム@資生堂本社を拠点にオンライン開催 テーマ：「顔を知る・顔を楽しむ・顔で遊ぶ」特別講演：馬場悠男、江川悦子 3月6日 ▼第26回大会「フォーラム顔学2021」@立命館大学を拠点にオンライン開催 テーマ：「マスクの下に広がる世界」特別講演：伊藤文人 9月18日ー19日
2022	▼第27回大会「フォーラム顔学2022」@香川大学 林町キャンパス 特別講演：寺林優 9月17日ー18日
2023	▼第4回関西支部研究会@大阪樟蔭女子大学 テーマ：「我々は『ルッキズム』をどのように捉えるべきか?」 8月5日 ▼第28回大会「フォーラム顔学2023」@つくばカピオ テーマ：「人々のための顔 ～ 顔の技術と社会受容性」特別講演：今岡仁、石田祐貴 10月14日ー15日 ▼学会誌はWeb版のみの発行となる 12月26日 ▼顔学通信2023発行、以降毎年年末に発行 12月26日
2024	▼第5代会長に阿部恒之就任 1月1日 ▼会報誌「ニューズレター」が電子化され、ホームページからの情報発信となる 2月 ▼第29回大会「フォーラム顔学2024」@アイーナいわて県民情報交流センター テーマ：「まなざしの前(さき)にあるもの、まなざしの奥にあるもの」 特別講演：橋彌和秀
2025	▼創立30周年記念シンポジウム@早稲田大学・井深大ホール テーマ：「顔の未来デザイン ー顔って? 誰の? どこへ?ー」 特別講演：森島繁生、米澤泉 3月29日 ▼第5回関西支部研究会@大阪工業大学 テーマ：「顔学研究の未来」 8月25日 ▼第30回大会「フォーラム顔学2025」@早稲田大学・井深大ホール テーマ：「顔学の新天地」特別講演：金出武雄、長野光希 11月1日-2日

日本顔学会30周年記念シンポジウム 開催報告

2025年3月29日(土)早稲田大学・国際会議場井深大記念ホールにて日本顔学会30周年記念シンポジウムが開催されました。

日本顔学会は1995年に創立し、2025年に30周年を迎えました。私たちは「顔」に関心のある方が集まって交流し、様々な活動を通じて「顔学」を広めてきました。会員はもちろん、「顔」に興味のある一般の方や学生さんにもご参加いただき、盛況のうち無事終了いたしました。

テーマは『顔の未来デザイン 顔って？ 誰の？ どこへ？』とし、特別講演として「生成AI時代のバーチャルヒューマン研究の現状と今後」を早稲田大学先進理工学部教授 森島繁生先生、「私の顔を生きる—ガングロギャルから顔出しNGアーティストまで」を甲南女子大学人間科学部教授 米澤泉先生にお願いし、それぞれ有意義で非常に興味深く、時代の最先端を行く内容に、参加したみなさまには大変ご好評いただきました。

また、テーマに合わせて、会員のみなさまから「未来の顔とは？」を募集しました。1万年後の顔はどうなっている？100年後の化粧は？など、未来の顔を予測し、そのアイデアのテキストを募集しました。そしてその中から顔学会のイラストレーターが気に入ったものを選び、画像化しました。ユニークで奇抜なアイデアが集まり、そのアイデアに応じた楽しいイラストが画像化され、会場にも展示されました。

なお当日の様子を記録した楽しい動画は右のQRコードよりご覧いただけます。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



当日の様子

実行委員長：菅沼 薫



似顔絵制作：大野寛武



菅沼薫実行委員長



阿部恒之会長



森島繁生先生



米澤泉先生

■生成AI時代のバーチャルヒューマン研究の現状と今後 森島 繁生

人物CG合成のフォトリアリティに関しておよそ38年間研究を継続してきた。2005年の愛・地球博において、観客全員の顔が自動的にモデル化され映画の登場人物として出演させる世界初の“Future Cast Theater”は、企業パビリオンの目玉として注目され、164万人の観客がこれを楽しんだ。その後12年に渡り長崎のハウステンボスで常設展示としてロングラン上映された。いわばAI時代前夜の技術の集大成と言える。しかし、AIの急速な発展の時代を迎え、最近5年ほどで、それ以前の30年を遙かに凌駕するクオリティの成果が加速度的に発表されるようになり、研究のスタイルも激変した。このような背景において、1枚の写真の人物の顔から3次元顔モデルを自動生成する技術や、一枚の画像から衣服を着たユーザそっくりのデジタルアバターを瞬時に自動生成する要素技術を開発した。本講演では、特に人物そっくりのCGキャラクタ合成に焦点を当て、これまでの研究経緯を振り返りつつ、最近の急速な研究発展の様子を実際に動画を交えながら紹介する。

■私の顔を生きる—ガングロギャルから顔出しNGアーティストまで 米澤 泉

ガングロ、目力、茶髪、プチ整形—女子高生からアスリート男子に至るまでが化粧や身体改造に夢中になった1995年、日本顔学会は設立された。顔への関心の高まりが顔学会の誕生につながったのだ。それから30年。「顔」はすっかり脱着できるものとなった。コスメやテクノロジーは際限なく進化し、インターネットでつながれた社会にSNSが普及するなかで、もはやリアルな化粧や身体改造だけでなく、ヴァーチャルな世界で顔や身体をいかに表現するかが、重要な課題となった。アバターが登場し、仮想が現実を凌駕するかのようなかで、現実の顔はほとんど興行きをなくしていく。マスク顔も市民権を得るようになり、顔を見せない「顔出しNG」アーティストが紅白歌合戦に出場する時代において、顔はその存在感を失いつつあるのだろうか。その背景には何があるのだろうか。私たちは顔が特権的に強い意味を持っていた時代の終わりに立ち会っているのだろうか。



30周年記念シンポジウム
ホームページ

顔学会公認サークル、関連団体より「未来の顔」のプレゼンテーションが行われました。それぞれ独自の視点でユニークで大変興味深い内容の、発表となりました。



日本顔学会若手交流会



美人画研究会



化粧文化研究者ネットワーク



事前インタビュー動画



事前インタビュー動画

関西支部・第5回研究会 開催報告

支部長：瀬尾 昌孝



似顔絵制作：宇田川のり子



阿部恒之会長による開会の挨拶



森島繁生先生

続いて、甲南女子大学人間科学部教授の米澤泉先生より「スマホ時代の顔と化粧文化」と題してご講演いただきました。顔学会30周年記念シンポジウムで開催された「未来の顔コンペティション」のグランプリ作品にも触れながら、顔に対する価値観の変遷と、これから好まれる「顔」の在り方についてお話いただきました。個人のアイデンティティとしての「顔」だけでなく、状況や役割に応じた“分人”としての顔の概念が注目されていること、さらに顔を自己のアイデンティティと結びつけない考え方が、顔を隠すアーティストの登場や個性を目立たせないメイクの流行につながっているという興味深い視点をご提示いただきました。

三人目として、関西学院大学工学部特任助教の都賀美有紀先生より「感性研究と顔学～個人差に基づく価値創造～」と題してご講演いただきました。都賀先生の所属される感性価値創造インスティテュートでは、感性価値の探求を通じて、商品開発における高付加価値化やウェルビーイングの向上、社会的ロスの低減を目指す研究が進められているとのことでした。化粧水の触感や拭き取り感が心地よさと使用満足度に影響するという研究成果に加え、価値観が多様化する現代社会における「顔の多様性」の重要性や、好みに応じた最適化の可能性について、非常に示唆に富むご提言をいただきました。



パネルディスカッション『顔学研究の未来』

今回の研究会では、技術・文化・感性という異なる軸から「顔」を問い直す視点が交差し、顔学の新たな可能性と広がりを実感する機会となりました。「顔」は、生体情報であり、社会的記号であり、そして感性価値を創造する媒介でもあります。デジタルとリアルが交錯する現代において、私たちはどのような「顔」とともに生きていくのか——その問いは、研究者だけでなく、社会全体に開かれた問いでもあります。

これからも関西支部では、分野横断的な対話と研究交流を通じて、顔学の新たな地平を切り拓いていきたいと思えます。ご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

ニューズレターページ▶



■コンペティション「未来の顔」

「未来の顔」には、18件の応募があり、9点が入選作品となりました。そして審査員による審査結果として、グランプリは「20年後の流行メイク」(テキスト:高松 操、イラスト:橋本 恵一郎)、また会場のみなさんの拍手の音量により、オーディエンス賞は「50年後の人類の顔・化粧」(テキスト:化粧文化研究者ネットワーク、イラスト:松永 伸子)がそれぞれ選ばれました。



【グランプリ受賞】
20年後の流行メイク



高松 操さん



橋本 恵一郎さん



ニューズレター『未来の顔』
コンペティション
グランプリ受賞のご報告
(賞品の似顔絵)



【オーディエンス賞】
50年後の人類の顔・化粧



コンペティション
「未来の顔」ホームページ
入選作品のタイトルや
画像等の詳細情報を掲載

第30回日本顔学会大会(フォーラム顔学 2025) 開催報告

会場写真撮影
福富 大介

JAPANESE ACADEMY OF FACIAL STUDIES



第30回日本顔学会大会(フォーラム顔学2025)は、2025年11月1日(土)～2日(日)の2日間、早稲田大学国際会議場 井深ホールにて無事開催されました。

顔学の新地平

本大会ではテーマを「顔学の新地平」と設定し、このテーマのもとで、特別講演とパネルディスカッションを企画されました。



特別講演: 金出武雄氏

特別講演では、永年、コンピュータビジョン・ロボットの分野で世界を牽引し、これまで顔認識や合成分野においてもレジェンドとして活躍されてきたカーネギーメロン大学の金出武雄教授による「顔画像処理夜明けの時代から現在を観る」と題した講演と、新進気鋭の若手研究者として現在米国NVIDIAでデジタルヒューマンおよびメタバースの研究の最先端を突っ走る長野光希氏より「大規模AI時代のデジタルヒューマン合成」と題して、お話を伺いました。



特別講演: 長野光希氏(オンライン参加)

パネルディスカッション

テーマ 顔学の新地平

デジタルヒューマンコンソーシアムのメンバー企業各社に技術開発の現状についてご報告頂き、今後のデジタルヒューマンの活用・マーケット展望に関して、特別講演者のお二人、会場の参加者を含めて議論を行いました。デジタルヒューマンの研究開発やシステム開発、実用化に実際に取り組んでおられる各社の代表から現状紹介を頂いた後に、いくつかの切り口から各社の考え方について議論頂きました。特に、2019年のフォーラム顔学で特別講演をお願いしたTELYUKA(石川てる氏・石川ゆか氏)には再登壇頂き、彼らの制作した高校生SAYAが、アイシンの取り組みによって6年の時を経て大いに活躍している様子をご紹介され、非常に印象的でした。



石川てる氏・石川ゆか氏／大須賀晋氏／松山洋一氏／吉田一星氏／武富貴史氏／田邊集氏／岩本尚也氏／加藤卓哉氏／金出武雄氏／長野光希氏

大会長: 森島 繁生



似顔絵制作: 中野英明



開会挨拶をする阿部会長

森島大会長



ポスター発表・作品展示・スポンサー展示会場



イブニングシンポジウム



菅沼賞 O2-1 口腔の審美治療に役立つ Shade taking systemの開発 鷲尾 絢子(九州歯科大学)・村上 駿介・大井 航太朗・木原 成海・神谷 亨(九州工業大学)



阿部賞 O5-5 相同モデル化技術を用いた顔貌の加齢変化の男女特徴解析と魅力的な笑顔の評価検討 森田 彩・小玉 陽月・上川 裕子(タカラベルモント株式会社)



オーディエンス賞 (アイシン特別賞) P2-12 柔軟構造の3Dプリンティングにより筋肉を再現した顔型ロボットの設計 金子 隼・吉村 駿之介・河原塚 健人・岡田 慧(東京大学)



オーディエンス賞 (ポスター2日目) P2-7 成人一卵性双生児を対象にした顔形状と身体筋肉量の関係性に関する研究 酒井典子・原 祐輔・柳原 茜・岡村 智恵子(株式会社資生堂)・大阪ツインリサーチグループ・赤田加奈子・荒川 裕也・渡邊 幹夫(大阪大学)



オーディエンス賞(作品展示) D-3 笑って喋る3D能面ー仮想空間内の光源操作による能面3Dモデルの顔性の生成ー 麻生 りり子(能面師)・田中 由人(TOPPANホールディングス株式会社)



オーディエンス賞(口頭発表) O5-4 ECILAフィールドテストから見た顔学的知見ー顔パーツ特徴量のデータ拡充と詳細分析ー 井上 直子・山口 直峻・水谷 元(タカラベルモント株式会社) 奥水 大和(Y Y Cソリューション・中京大学)



オーディエンス賞 (ポスター1日目) P1-9 プロジェクタ・カメラ同期システムによる顔の皮下血管のイメージング 篠ヶ瀬 えみり・伊藤 直輝・久保 尋之(千葉大学)



フォーラム2026の紹介
渡邊大会長

日本顔学会会長からのご挨拶

2024年より、菅沼前会長の後を受けて、第五代・日本顔学会会長に就任した阿部恒之です。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私と顔学の出会いは、東北大学文学部哲学科心理学専攻の3年生に遡ります。「心理学特殊実験」という、卒論の練習に位置づけられるレポート実習で、「顔みたくに見える蝶々の写真を記憶するとき、顔独特の記憶現象が現れるか」という内容のレポートを書いたのが始まりです。ちょうどこの頃は、心理学で顔の知覚研究が勃興し始めたころであり、日本国内では、まだ、数名しか研究者がいませんでした。しかし、指導教授と博士課程の先輩が、その貴重な数名だったのは幸いでした。

卒業後、化粧品メーカーの研究員になって、20年間研究を職務としました。ストレスやアロマコロジーなどの生理心理学的研究と共に顔の研究にも精を出し、「顔だちマップ」の開発や、化粧療法の研究などを行いました。この20年間で、「化粧心理学」草創の一翼を担うことができたかと自負しています。

在職のまま、東北大学大学院への編入学を認め、学位を取らせていただいた会社には、今も感謝しています。しかし2005年、愛着あるこの会社を辞し、出身校の東北大学に移籍しました。大学では、感情心理学の看板を掲げて仕事をしていますが、私のところに来る学生の多くは、化粧心理学や、顔の知覚研究を希望します。ですから、大学に移ってからの20年間も、顔との縁が続いています。

さて、顔学会は、学域をベースとした一般的な学会と異なり、顔という対象を求心力として集う、多学域・多専門家の集合体です。学会運営作法が異なる方々が、手探りで会則・規定を整え、工夫しながら組織を構成し、多くの業務を手弁当で行ってきました。合意形成も、広く意見を募り、実に慎重な手続きで行われてきました。このような民主的な運営は、日本顔学会の誇るべき宝だと思います。また、これまでの歴代会長のお人柄に恵まれ、朗らかで楽しい雰囲気が充満していることも当学会の特徴です。研究も大会も、そして学会運営も、大いに楽しみながら行う。そういう伝統が構築されていると思います。この伝統は、大切にしていきたいと思っています。

日本顔学会 会長 阿部 恒之



似顔絵制作: 小河原智子



当日写真集
撮影: 福富 大介
Lightroom



当日写真集
撮影: 松永 伸子
ニュースレター



第30回日本顔学会大会
開催報告
ニュースレター



第30回日本顔学会大会
閉会のご挨拶
日本顔学ホームページ



抄録集(PDF)

閲覧には**パスワード**が必要です。会員の方は**同封の総会資料**をご確認ください。

日本顔学会とは？

▼『従来の枠組みを超えたネットワークの創造』

1995年3月、顔に関する研究の発展を期し、あわせて「顔学」の普及を図ることを目的に、顔の研究者、顔の研究に興味がある人が結集して、日本顔学会が発足しました。発足後5年の間に、国立科学博物館を中心とした大「顔」展を企画するなど、世界的に見ても類のない、新しいかたちの学会の活動が新たな波紋を社会に投じています。

歯学・工学・美容・心理学・医学・芸術・人類学

<https://www.jface.jp/>

▼顔に関心がある人なら、誰でも会員に！

既存の学会では考えられなかった異なる分野の方々と構成されています。歯や歯並びを扱う歯学、コンピュータや機械を扱う工学、美容や化粧品文化学、眼鏡などを扱う分野、顔の魅力や表情の研究を扱う心理学、形成外科、美容外科、解剖学、神経学などの医学、美術解剖学ほかの芸術学・人類学となります。

いかにさまざまな研究分野・職業の方が集まっているかが証明されているようです。従来の枠組みでは不可能だった出会いが「日本顔学会」を通して可能となっています。

日本顔学会は、広く「顔学」に関する研究者間の情報交流の場をつくり、これまで単分野では捉えられなかった学際的な「顔」に関する研究の進歩発展をはかり、われわれの生活向上や人間探求の発展に寄与することを目的としています。

工学、理学、医学、生理学、心理学、社会学、哲学、芸術などのあらゆる分野で「顔」に関連する研究を行っている方、及び「顔」の工学・技術的な面、あるいは生理的、心理的、哲学的、社会・経済的な側面に興味をおもちの方は、是非本学会に御入会下さいませようお勧め致します。

日本顔学会は趣味の団体ではありません。一方で、顔に関心があり、顔学の発展に寄与したいと考えている方は誰でも会員になれます。顔の学術的な研究者である必要はありません。



会員募集中！



日本顔学会ホームページ



入会案内

顔学オンラインサロン

顔に関心のある方にもしかしたら役に立つかもしれない情報を紹介します。

▼2025年度開催実績 話=話題提供者

- ◎第64回1月21日(火)「感じているけどうまく説明できない!～顔と肌の色彩・質感の面白さ」
話:五十嵐崇訓氏(花王株式会社)
- ◎第65回2月4日(火)「試験管の中で人間の顔が創れる!?～人工全顔皮膚モデルの開発と応用性について～」
話:宮地克真氏(日本メナード化粧品総合研究所 研究技術部門 技術開発部II 応用細胞研究グループ)
- ◎第66回3月4日(火)「日本顔学会30周年記念シンポジウムのご案内」
話:菅沼薫氏(実行委員会委員長)+斎藤忍氏(実行委員)
- ◎第67回4月8日(火)「顔学会の3 恩人 ー香原先生、村澤先生、山田先生ー」
話:馬場悠男氏、渡邊伸行氏、原島博氏(進行)
- ◎第68回5月27日(火)「村澤博人と化粧文化研究」
話:北山晴一氏(化粧文化研究者ネットワーク世話人代表)
- ◎第69回6月3日(火)「顔の表象 ー魂を描くー」
話:尾崎彰宏氏(東北大学総長特命教授)
- ◎第70回7月15日(火)「関西支部活動紹介と第5回研究会(8月25日)の見どころ!聴きどころ!」
話:南野美紀氏(日本顔学会関西支部事務局長)
- ◎第71回8月3日(日)特別企画「顔学オンラインサロン★OFF会」
指導:麻生リリ子氏・宇田川のり子氏・斎藤忍氏・高橋エツコ氏・橋本憲一郎氏・吉村まゆみ氏
- ◎第72回9月9日(火)「八十路を迎えて、いまわくわくしていること」
話:原島博氏(日本顔学会元会長)
- ◎第73回10月7日(火)「顔学の新天地」
話:森島繁生氏(早稲田大学教授)
- ◎第74回12月9日(火)「日本における肖像画の視線ーなぜこちらを向かないのか?」
話:岩井茂樹氏(大阪大学日本語日本文化教育センター)



委員長：村上 泉子

似顔絵制作：松永伸子



オンラインサロン
参加申込フォーム

顔学オンラインサロンへの¥参加は無料です。
会員以外でも参加できます！ …参加申込は→

基本的に月1回火曜日の20時から約2時間の開催を予定しています。お気軽にご参加ください。

ニュースレターページ▶
こちらにオンラインサロンの
詳細情報を掲載しています



学会誌編集委員会

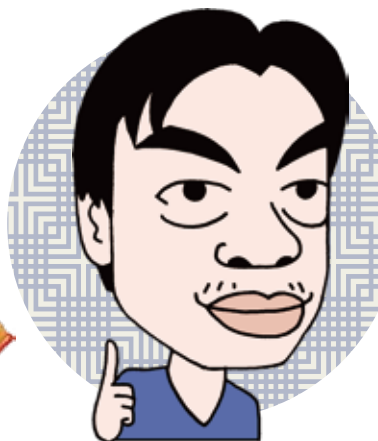
【日本顔学会誌第25巻1号】

- ▼巻頭言 菅沼 薫
日本顔学会 創立 30 周年を迎えて
- ▼特別寄稿 原島 博
顔学会の 30 年、それは人生を変えました
- ▼特別寄稿 奥水 大和
私にとっての顔学会 30 周年についてー『顔学会は学術的法事』の話ー
- ▼特別寄稿 馬場 悠男
進め顔学、ローテク・アナログ・リアルも連れて
- ▼特別寄稿 森島 繁生
顔学会創立 30 周年を迎え思うこと
- ▼特別寄稿 米澤 泉
顔と分人主義
- ▼学術論文 鳥居 さくら
人種識別における顔画像の空間周波数特性の役割
- ▼学術論文 伊師華江・畑中駿平・本郷哲
生成顔画像を用いた安心感を与える顔の特徴の可視化と評価者年代層別の比較
- ▼学術論文 Yoshiki Oshida and Lilico Aso
Essential Role of Real Faces in Face-to-Face Communication – Approach to the Thesis: Face is Ba for Co-Creation of Communication
- ▼学術論文 鈴木萌々香・氏家悠太・高橋康介
連続提示顔の変形効果における目と顔全体提示の重要性
- ▼研究ノート 伊藤朱里・阿部恒之
髭が成熟性・男性性・攻撃性の容貌印象に及ぼす効果
- ▼研究ノート 寺崎結香・藤村友美・竹原卓真
クローン減価効果は正立顔と倒立顔の双方で生じる
- ▼研究ノート 竹原 卓真
顔の向きと目のサイズが知覚された顔魅力に及ぼす効果

30周年 特別寄稿



編集長：高橋 康介



似顔絵制作：宇田川のり子

J-STAGE ではトップページの検索ウインドに「日本顔学会 2025」と入力して検索



<https://www.jstage.jst.go.jp/>



J-STAGE
ホームページ



<https://www.jface.jp/jp/e-journal>

各論文等は日本顔学会「学会誌」のページより【最新号】から閲覧できます。

学術変革領域(A) (★・) 顔身体デザイン

FACE & BODY
▲領域ロゴ
製作: 陣内利博氏
(武蔵野美術大学)



学術変革領域(A)
ホームページ

実践・実証・設計に基づく顔身体の深化と昇華

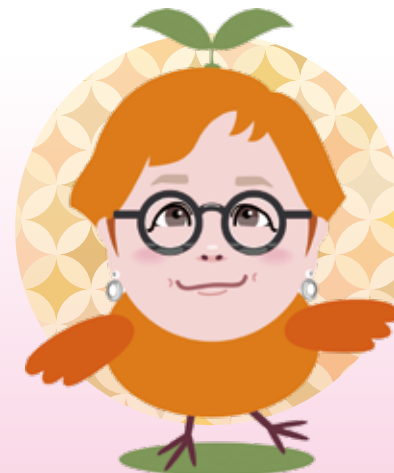
本領域の目的 ー 未来の顔身体デザイン
本領域では、未来の顔身体設計と、未来の顔身体抱える差別や痛みを解消する倫理形成と教育を提案することを目指す。

アプローチ

前領域「顔・身体学」(新学術領域研究:2017年度～2021年度)で哲学・文化人類学・心理学の分野の領域横断に成功したことを継承して【実践】【実証】【設計】の総合知の観点から計画班を設定し、未来の顔身体デザインを提案する。

具体的には、地域のインタラクションのアーカイブをベースに顔身体を設計し、必要な倫理と教育を提案することにより、社会環境を包含する未来の顔身体あり方を「未来の顔身体デザイン」として究明する。

代表：山口 真美



似顔絵制作：中村剛

Face-body design: deepening and sublimating face-body based on practical, empirical and constructive research

ニュースレター編集委員会

J-FACE NEWS LETTER



「ニュースレター」は、顔学会や公認スクール、関連団体などにまつわる各種活動・情報を紹介しています。



ニュースレターホームページ

<https://www.jface.info/>

1996年3月発行の第1号より年3回、学会員向けに提供してきましたが、2019年よりPDF公開版として非会員の皆様にも楽しんでいただけるようになりました。

さらに2024年より全ての情報発信をホームページに切り替えました。



編集長：新木 美代



似顔絵制作：橋本憲一郎



ニュースレターのバックナンバーを、ここからダウンロードできます（PDF）。

日本顔学会若手交流会



副代表：前島 謙宣



似顔絵制作：吉村まゆみ



Whats New、活動報告詳細、メンバープロフィール、研究実績、メディア掲載等
日本顔学会若手交流会
ホームページ



ニュースレターページ▶



顔学の未来を築く若手による気軽な交流・議論の場として2012年11月に発足した、日本顔学会の公認サークルです。以下は2025年の活動報告です。

- 第34回定期交流会「顔をめぐるホットトピック&トレンド探求～若手研究者による2024年周辺学会クロスレビュー～」
2025年6月29日：オンライン（Google Meet）
▽第一部：「顔の魅力と進化心理学：2020年代の研究動向」
講師：高橋 翠 氏（東京大学）
▽第二部：「日本における笑顔写真の誕生」
講師：岩井 茂樹 氏（大阪大学JILC）

- 第33回定期交流会「江戸ムスメの理想肌」
2025年3月16日（日）：ハイブリッド（ポーラ文化研究所化粧文化ギャラリー+Zoom ミーティング）
▽前半では、株式会社ポーラ・オルビスホールディングス（当時はポーラ化粧品本舗）がいかにして「美容・化粧・よそおい」を「文化」に位置づけ化粧文化研究に至ったかの経緯および、ライフステージの変化にともない通過儀礼的に行われてきた、江戸時代のヘアスタイル・メイク方法・道具に関する研究成果について、ギャラリー（Art）コーナーで展示の浮世絵・レプリカ資料等を鑑賞しながら詳しくご紹介いただきました。
▽後半では、1813（文化10）年に発行された『都風俗化粧伝』を参照しながら、江戸時代に用いられていた白粉を、現代の素材を使って無鉛無害で再現した2種類の粉を実際に肌に塗って体感できるコーナーが設けられ、大変充実した内容でした。当時用いられていた白粉には鉛が含有されており、神経毒が社会問題化しつつも、使用感の良さから使われ続け、歌舞伎の人気役者が鉛中毒と診断されてから約50年後にようやく販売停止となったという驚きの研究結果、浮世絵が写実性を欠くことによる研究への影響など、研究裏話を楽しくお伺いしました。

化粧文化研究者ネットワーク

代表：北山 晴一



似顔絵制作：高橋悦子

化粧文化に関する研究会開催と情報交換を通じて、化粧文化研究の深化発展と若手研究者の奨励をめざす。



ニュースレターページ
詳細情報を掲載しています

以下は2025年の主な活動報告です。

▼第72回研究会

日時：2025年12月6日（土）

テーマ：「がん治療におけるアピランスケア～最近のトピックもふまえて～」

講師：野澤桂子氏（目白大学看護学部看護学科教授、臨床心理士）

今回の研究会では、具体的な事例をもとに、外見の変化によって起こる問題の本質が人間関係や社会生活の変化であること、したがってアピランスケアとはじつは外見のケアにとどまらず、「こうあらねばならない」という思い込みを取り払うこと、そして生活の場に出て行く自信をつけることが重要である等のお話をいただきました。

▼第71回研究会

テーマ：「ホーユーヘアカラーミュージアム見学会」

日時：2025年9月16日（火）

第一部：化粧文化研究者ネットワーク

会員向け見学会

第二部：コスメタトゥーLUCENA（*）開発者の藤井淳氏、山口真吾氏によるセミナーと体験会（*タトゥーの持続時間は1週間ほど）



▼第70回研究会

テーマ：「官能評価の歴史とこれから～食の場合から考える」

日時：2025年6月28日（土）

講師：早川文代氏（農研機構 食品研究部門 食品流通・安全研究領域 分析評価グループ・グループ長補佐）

講師の早川文代先生は、つくば市にある国立研究開発法人農研機構で、食品の官能評価法を研究されており、食品の官能評価法の開発や、それらの基盤となる日本語のテクスチャー用語体系の作成などに携わってこられた。

美人画研究会

美しさを表現して描かれた人物絵画、版画、イラスト、写真などを対象とした研究発表を行なっているサークルです。

「美人画研究会」は、美しさを表現して描かれた人物絵画、版画、イラスト、写真などを対象とした研究発表を行なっているサークルです。その内容は美術の研究のみにとどまらず、顔の研究、歴史的背景の研究、心理学的な切り口での研究など、多岐のジャンルを横に繋ぐものとなっています。そのため美術の初心者の方でも、「美人画」に興味のある方であれば、どなたでも参加して一緒に研究活動をしていただける、開かれたサークルです。以下2025年の主な活動報告です。

◎第37回美人画研究会 日時：2025年10月19日（日）

テーマ：「世界各国異なる美人の基準」

大阪・関西万博が開催され、158の国・地域が参加して、世界各国の多様な文化や歴史、最新技術等が紹介されました。この万博イヤーにちなみ、世界の美人の基準の違いを共同研究いたしました。

▽第1部：「こんなにちがう！世界の美人の基準」 松永伸子 美人画研究会クリエイティブ代表
世界には国や地域・部族などにより様々な美の基準や風習が存在しています。それらの画像をスライドにまとめてご紹介いたしました。

▽第2部：クリエイティブメンバーによる作品発表とディスカッション。クリエイティブメンバーが既存の基準や概念とは異なる美人画の作品を制作・持参し、その作品について各自がプレゼンいたしました。



◎第36回 美人画研究会。日時：2025年8月30日（土）

▽第1部：畑江麻里（美人画研究会アカデミック主宰）

「蔦屋重三郎と花魁ファッションの世界」講話

▽第2部：斎藤忍先生（似顔絵TVチャンピオン／日本顔学会理事）指導による浮世絵お面づくり



ニュースレターページ
詳細情報を掲載しています

クリエイティブグループ
代表：松永 伸子



似顔絵制作：金井かすみ



美人画研究会
ホームページ